



社会学部

藤本昌代 先生

科学技術概論Ⅱ

社会学

社会調査士

質問 01/03

なぜいま、文系学部出身のサイエンスコミュニケーターが求められるのか

科学的なことは社会に実装される際に多くの社会現象を引き起こします。科学者が非専門家なのに彼らのイメージの「社会」に向けて科学的知識をブレイクダウンしてもインターフェースになれないことを知ってほしいため、この科目に関わっています。本来であれば、サイエンス・コミュニケーターだけでなく、「ソーシャル・サイエンス・コミュニケーター」も必要な制度であり、片方しかないのは、昔型の「科学＝優れている」「わからない人に教えてあげる」という感覚の人たちが設計したためだと思います。そんな感覚のままではTVの健康番組と変わらず、流れていってしまう知識になるだけです。

理系学生と言っても受講している学生の多くは2年生で、文系学生と言われる人々と自学部の知識の差はせいぜい1年間のみで(理系の他学部の知識もなく、語学科目等の受講時間を考えると)、まだ、大きな違いはない時期です。さらに、みな、自分野以外は素人であり(大学受験科目を学習している訳ではないので)、どの学生さんもまだまだ理系でも文系でもありませんので、ニュートラルな考えでいろいろな現象を理解してほしいと思っています。

質問 02/03

副専攻を通じて学んでほしいこと・身に付けてほしいこと

自学部の先生の授業で聞いた話を「自分の言葉」で他学部の学生に説明する時、その現象を説明できる言葉、理解される言葉になるように、少しずつ努力することがお互いにより刺激になると思います。

理系、文系というくりではなく、他学部の学生同士の交流が重要ということです。みなさんに身に付けてほしいのは「社会に対する想像力」です。たとえば、50年前の研究で、政府が国民に知ってほしい情報をマスメディアで流した際、聞いてくれたのは、もともとそのようなニュースに関心をもって知っていた人々だけで、普及を願っていた層の人々は「何か、よくタレントが宣伝していたけど、何のニュースかは知らない」という結果だったというものがあります。どのようにしたら、人々が関心をもって「自分事」として聞いてくれるのかは、送り手だけの工夫ではだめで受け手に対する想像力も必要なのです。

質問 03/03

今後の副専攻履修者に一言

「社会」にいる人々はどのような人がいて、どのような状況で、どのような属性の人が、どのような行為、考え方をするのか、同じ情報でも受け取り方が大きく違うのはなぜか、など、普段、社会科学を学んでいない学生さんにはたくさんの想像力を身につけてほしいと思いますし、社会科学を学んでいる学生さんには、科学を追求する人々が見ている世界、それが社会実装される時に何が起こるのか、科学的なことには自分たちは「関係ない」、「苦手」と思わず、どんな貢献ができるか、考える力を付けてほしいと思います。